

月刊 あなたにこの **本** を！ 平成 23 年 **12** 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」 選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。



…字が大きめ

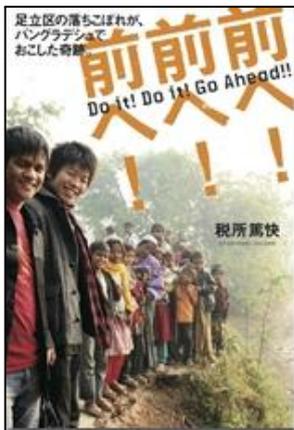


…中高生にも



…図・写真が多い

※価格のあとの()内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。



前へ！前へ！前へ！ —足立区の落ちこぼれが、バン グラデシュでおこした奇跡。—



税所篤快 著
木楽舎 1365 円 (0012274925)

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

失恋を機に、一人前の男になろうと思った著者は、バングラデシュの貧困層向け融資で有名なグラミン銀行の本に感銘を受けた。彼は読んだその日に書き手に会いに行き、助言を得るや現地に乗り込む。そして、教師不足や貧困のため進学をあきらめていた農村部の高校生を、ビデオ式授業で最難関のダッカ大学に合格させるプロジェクトを始動。本書はその型破りな試みを勢いのままに描く。ひたすら前に進む行動力が清々しく、世界は変えられると実感させられる。[335.89]



ヒトは人の始まり —霊長類学の窓から—

三谷雅純 著
毎日新聞社 1470 円 (0012322040)

ジャンル：現代社会を見つめる

脳こうそくによるまひの残る体でインドネシアでの現地調査を行う霊長類学者が、生物としての「ヒト」の特性や、社会に生きる「人」のあり方について語る。ADHD(注意欠陥多動性障害)は、狩猟採集生活にはよく合った性質で、政治家や研究者には向いていると著者は言う。その豊かな経験や知見から示される様々な事例からは、少数者が暮らしにくい現代社会が見えてくる。多様な人間がともに自分らしく生きるにはどうしたらよいか考えさせられる。[489.9]



珍獣病院 —ちっぽけだけど同じ命—



田向健一 著
講談社 1575 円 (0012336802)

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

獣医の世界では、ウサギやハムスターでも珍獣として扱われ、診療できる病院はごくわずかだ。著者は、子どもの頃、ペットのイグアナを治療したくて獣医を目指した。現在、動物病院の院長となり、アマガエルの手術など8年で100種類以上の動物の診療をしている。初めて診る動物でも、目の前の命を救おうと奮闘する著者の姿は、動物と共に暮らす責任を飼主に問うている。命の大切さや情熱を持ってチャレンジすることの素晴らしさが伝わってくる。[649]

職業は武装解除

瀬谷ルミ子 著
朝日新聞出版 1470 円 (0012368230)

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

ルワンダ内戦の写真を見たことがきっかけで、紛争解決の道へ進み、武装解除の専門家となった著者が、その半生をつづる。紛争が終わっても、壊れた社会がすぐに復興するわけではない。兵士からの武器の回収、職業訓練や自立支援など、再建に必要な仕事は多岐にわたる。国連やNPOなどでそれらの仕事に携わってきた著者は、「紛争地を、亡くなった人々がまた生まれてきたいと思うような社会に変えていきたい」と語る。高い志と熱い思いが伝わってくる。[319.8]

仕事の話 ー日本のスペシャリスト 32 人が語る「やり直し、繰り返し」ー

木村俊介 著
文藝春秋 1950 円 (0012318673)

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

アニメーションの背景画家や時計職人、料理人など各界で活躍するプロフェッショナル 32 人に取材したインタビュー集。彼らが「どう感じ、動き、耐え、業務を続けてきたか」という話から、働くこととは「やり直し、繰り返し」であると著者は痛感する。自分の仕事の難しさに向き合いつつ、その面白さを感じ、社会に役立てる喜びを知る人々の本心からの言葉を引き出している。経験を集積した言葉は、人生への示唆ともなっており味わい深い。[366.29]

**世界をやりなおしても生命は生まれるか？
ー生命の本質にせまるメタ生物学講義ー**

長沼 毅 著
朝日出版社 1680 円 (0012325206)

ジャンル：知識・教養を深める

本書は、生物学者である著者による、高校生への特別講義をもとに書籍化された。生物とはどういうものか、マンガや映画など身近な話題もからめつつ、様々な研究を例にとり、生徒たちと共に考えていく。深海に生息するチューブワームや、パソコン上で動く人工生命など、どれもが丁寧に解説され、命について新たな視点が示されている。数式を用い、理詰めで生命の謎に挑む面白さが伝わってくる。研究の現状や生命の不思議にせまる手引書。[460]

工場は生きている ーものづくり探訪ー

加藤正文 文 綱本武雄 絵
かもがわ出版 2100 円 (0012357566)

ジャンル：暮らしにうらおいを

阪神淡路大震災による操業停止から2カ月半で再開した製鉄所、家内工業で維持するそろばん工場、地産地消にこだわったみそ製造所など、兵庫県の様々な工場を紹介する。著者2人で訪ね歩いた工場は、緻密で色鮮やかなイラストとインタビューを交えた簡潔な文章で表現されており、臨場感にあふれている。工場内部や働く職人たちの技が身近に感じられ、無機質な機械が並ぶ工場のイメージが払拭される。ものが生み出される現場の活気が伝わってくる。[509.021]

タネが危ない

野口 勲 著
日本経済新聞出版社 1680 円 (0012361893)

ジャンル：現代社会を見つめる

スーパーに並ぶ形の均一な野菜は、同じ形の子孫を残せない一代限りの交配種だ。そのため農家は毎年タネを買う。タネを大量に採るために、世界の種苗会社はまれに見つかる雄しべの退化した株を人工的に増やす。この「雄性不稔(ふねん)」種を母とする野菜を食べ続け、人体に影響はないのか。著者は、手塚治虫の編集者を経て実家の種苗店を継ぎ、昔ながらの採種できるタネを扱う。消費者の知らない間に食の源が変貌してゆく現状に警鐘を鳴らしている。[615]